

## 機械式駐車場の見直し。お宅の街区は？



埋め戻され平置きになった駐車場（10 番街）。左側には地下 1 階地上 2 階の三段式機械駐車場の区画が残る。

ベイタウンニュースの第 194 号（2013 年 7 月発行）で一度ご紹介しましたが、ベイタウン内で、機械式駐車場設備の見直しを行っている街区が増えてきているようです。入居時こそ、「駐車場全戸分確保」というたい文句が魅力に感じられたこともありましたが、住民の高齢化や若年層の車離れから来る稼働率の低下が目立ってきています。

私の住む 1 番街でも、建物内に 3 段式の機械式駐車場が設置されていますが、ここ数年は稼働率 60% 台で推移してきており、そのために無駄な電気代や保守費を払っているのが実情です。また保守会社からは、そろそろリフトチェーンや塗装の耐用年数が来ているため、交換や再塗装が必要とされ、数千万円単位の多額の見積りが提示されています。さらには、32 年目（2026 年度）には機械式駐車機全体の総入れ替えが必要とされ、1 億 5 千万円を超える修繕費が計上されています。以上のような保守費、修繕費の無駄をなくするため、現時点での機械式駐車場の見直しが急務となっています。

1 番街では、昨年 11 月に「機械式駐車場検討委員会」を立ち上げ、維持費の軽減を目的とした対策の検討を鋭意進めています。他にも、聞き取り調査の結果では、3・6・10 番街ですでに何らかの形で対策を実施済み、11 番街でも現在検討中（住民アンケート等を実施）とのことでした。

ひとことで見直しと言っても、その方法はさまざまです。3 番街・6 番街では、複数に分かれたブロックのうち、一部のブロックを完全に非稼働にし、その分の保守契約を解除する方法を採っています。この方式だと、メリットとして非稼働の部分に

関連した費用は発生しません。ただし、メンテナンスを完全に停止した区画については、再稼働が困難になることが予想されます。

また、セキュリティシステムが完全に遮断され、基本的に作動もできないため、万一子どもが立ち入る、物を落とすなどといったことが起こったときの対処が難しくなり、危険を伴います。この方法を採用する条件としては、立入りできないように頑丈な柵があること、駐車パレットに隙間がないことなどが挙げられますが、全ての機械式駐車場がそのような条件を満たすとは限りません。

1 番街の場合はパレットの間の隙間が大きく、またゲート自体も簡素なため、同様の対策を採ることができません。運用面の問題としては、非稼働の区画に駐車している人全てにスムーズに契約区画の移動を受け入れてもらえないという可能性もあり、その場合の調整には時間がかかります。3 番街では、新規契約を非稼働対象として選定したブロックに入れないという方法で、完全な空き区画を実現するまで 5 年という長い歳月を必要としました。

一方、10 番街では機械式駐車場の一部のブロックを完全に撤去して土砂で埋め戻し、平面駐車場としました。10 番街は外部から自由に出入りできる構造となっているため、平面化対象のブロックのゲートを撤去することによる車両へのいたずらが懸念され、新たに外部と駐車場との間にゲートの設置が必要になりました。

また、工事期間の代替駐車場の確保、料金体系の再設定、配置換えによる再契約などにも苦労したとのことでした。

以上の事例を参考に、私の住む 1 番街では今まさに検討中で、機械式駐車場の半数を撤去のうえ、埋め戻し、もしくは鋼板製床設置で平面化を行おうという案が出ています。埋め戻しの方が費用は安く済みますが、敷地にかかる荷重が現在より重くなってしまうです。1 番街の機械式駐車機は建物（住居部分）と一体となっているため、建物の安全性を配慮すると、多少費用が高くなっても、鋼板製床設置の方が良さそうです。この対策を来年度講じた場合、今後 11 年間で 7 千万円強の節約ができると試算しています（平面化工事費用を含む）。

また、平面化工事を機に、電気自動車の充電設備の設置、カーシェアリングの導入、来客用駐車場の設置、も検討しています。どこまで実現できるか今の段階では手探りですが、この後、総会での説明や住民アンケートなどを行い、最終的には臨時総会での特別決議を経て、実施に移そうとしています（特別決議：共用部分の変更のため、議決権の 4 分の 3 以上の賛成が必要）。

今後、さらに多くの街区で検討されることになる可能性がある機械式駐車場の問題。タワー型など前例のないケースもあります。マンション間で情報の共有を密にし、効率良く、無駄なく対応できればと思います。他の街区でも「すでにこんな方法でうまく行った」「今こんなことで悩んでいる」「こんな運用の方法もあります」といった話があれば、ぜひベイタウンニュースまでお寄せ下さい。また紙上で紹介したいと思います。【板東】



（写真上）外部からの進入禁止のため新しく設置されたゲート。

（写真下）平置き化するため撤去工事の機械式駐車場（いずれも 10 番街）



## 自分で考えるって大変、だけど面白い！

打瀬小で卒業研究発表会がある、と聞いた時、卒業研究なんておかげさな、と思いました。暇を見つけてはゲームにいそむ子どもたちが自力でひとつのテーマを追究できるの？これはかなりの偏見ではありますが、実際に予想を越えた姿を目の当たりにしました。今小学生はここまで成長しています。【小原】

この「卒業研究」は、「総合的な学習の時間」の6年生の活動です。打瀬小では開校時から実践を続け、独自に進化しています。「伝統の」と言っても過言ではありません。子どもたちはひとつのテーマにほぼ一年かけて取り組み、最後に発表します。

今年の発表会は2月5日から19日まで、授業中に各クラスで行いました。私が取材に訪れたのは2月8日午後。初めて足を踏み入れた迷路のような校舎の廊下を進むと、すでに各クラスから緊張した、でも一生懸命な発表の声が聞こえてきました。

最初に見た発表は、「少女マンガの絵をもっとうまくするには」です。そのほかに「木の絵を上手に描くには」「クイックシュートでシュート率を上げるには」というテーマもあります。どのテーマも自分で決め、「最初の状況(自分の姿)」を把握し、「1次研究、2次研究」と実践、評価を繰り返して少しずつ技術や知識がステップアップしていく様が、わかりやすく説明されていきました。

発表の手法も進化しています。テレビモニターを使い、リモコンを迷いなく操作して映像を見せています。先端に紙の矢印をつけた指示棒で見てもらいたい所を示しながら説明しています。しかも、原稿の棒読

みではなく、聞いている人を見て説明する姿勢もすごい。頭の中に流れがきちんと入っていないとできないことです。

後日、「少女マンガの絵」についての発表をした若杉夏音さんにインタビューしました。5年生の時に先輩の研究を見て自分がするならこれ、とテーマを考えていたという若杉さんからは「心から楽しんで取り組めるテーマを選ぶとよい。研究や工夫の成果を数字であらわすと伝わりやすいのだが、研究内容によって数字ではあらわせないものもあるのでよく考える。最初に無理のない計画を立てて実行していくことも大事」という次の学年へのアドバイスをもらいました。発表が終わってほっとしたか聞くと、「もっと発表の練習の時間を取りたかった。言

いたいことの1/3しか言えなかった。受験勉強との兼ね合いが大変だった」と反省のほうに先たちました。

お母さんの気持ちは、「わくわく、どきどき、はらはら、終わってほっとしました。親は活動のサポートだけで、内容には踏み込まないので、見守るほうも落ちつかなかったです」。お疲れ様でした。

研究とは、座ったまま受け身で「もらう」ものではなく、自分で考えて動いてようやく知識や技術を「手に入れる」ことです。身近な物事をよく観察することやひとつのことにコツコツ継続して取り組むこと、周囲からの協力があったというありがたさ。子どもたちは多くのことを卒業研究から学び取り、中学校という次のステージへと進むしっかりした足がかりができたのではないのでしょうか。



## 千葉市の鳥「コアジサシ」のペーパークラフト

みなさんは千葉市の鳥が「コアジサシ」だということをご存じですか。千葉市は政令指定都市移行を記念して、平成5年に市の新しいシンボルとして「コアジサシ」を市の鳥に制定しました。ベイタウンが街開きを迎える少し前のことです。

実はこのコアジサシが市のシンボルとなったのは、当時まだ延々と埋め立て地が続く新都心の地に、この鳥がたくさん営巣していたからでした。この沿岸一帯の空を

コアジサシが乱舞し、花見川では魚を捕るために今では珍しくなった彼らがダイブする姿があちこちで見られていました。

千葉市はこの鳥が市のシンボルだと知ってもらおうと「コアジサシのペーパークラフト」を平成12年に1万部を制作し、市民に提供してきました。コアジサシを校章のデザインに採り入れている海浜打瀬小学校では子どもたちにこの鳥に親しんでもらおうと、学校評議員の鎌田さんの協力も得て子どもたちがこのペーパークラフトをつくって校内のあちこちに展示しています。

海浜打瀬小ができるまで、当時は少なくなった埋め立て地の残る荒れ地にコア

ジサシは営巣をつづけ、その姿が初期の頃にベイタウンに越して来た人達には大きな癒しになっていたようです。鎌田さんもそのひとりでした。

鎌田さんは海浜打瀬小の子どもたちに工作の授業などの機会にこのクラフトの作り方を教え(低学年には少し難しいそうです)、自身の開く工作教室でもこの鳥の制作を何度も行ってきました。

ところが昨年の5月。いつものように千葉市にこのペーパークラフトの提供を求めた鎌田さんに「もう在庫がなくなりました。今後発行の予定もないので、必要ならコピーして使ってください」というショッキングな連絡がありました。やっと子どもたちが上手に作れるようになり、根付いていたのに残念と鎌田さんは市長に手紙を書きました。

先日市長から「印刷の予定はないが、カラーコピーしてきれいなペーパークラフトを発行する予定です」という連絡がありました。鎌田さんは「今、海浜打瀬小では校章の鳥が黒いので『カラスが校章』だと思っている子もいる始末。実物のコアジサシはいなくなったけれど、ペーパークラフトを通してここでコアジサシがたくさん飛んでいたことを覚えていて欲しい」と話していました。【松村】



海浜打瀬小図書室のコアジサシ。同校ではこの他にもあちこちでコアジサシが飛ぶ。



## ふたつの体験入学 小中学校で新1年生を招いて見学会

もうすぐ入学式、学校では新しい1年生を迎える準備がはじまっています。ベイタウンの3小学校では今の1年生が新1年生を迎える体験入学「まってるねの会」が毎年行われていることをご存じですか。これは打瀬の小学校独特の行事だそうです。中学校でもベイタウンの6年生を全員招いて体験入学を行っています。海浜打瀬小と打瀬中、ふたつの体験入学取材してきました。

2月17日、海浜打瀬小の1年生の教室を訪れると、オレンジ帽子の子どもたちが、1学年下のお客さまが来るのをわくわくしながら待っていました。黒板には手作りの飾りつけ、机の上にはブンブンゴマやおはじきなどの昔遊び、工作の材料。さまざまなレイアウトで3クラスそれぞれのおもて

なし。クラスによって内容が違うのはどんな「まってるねの会」にするのかを子どもたちで話し合っただけで決めたからだそうです。ちょうど海浜打瀬小は学年別に発表しあう授業「はばたけ夢の子デー」が終わったばかり。自分たちが発表した昔遊びを取り入れたり、2年生の発表で聴いたばかりの工作を再現したりして、直前の伝統授業で学習した内容を活かしたところに海浜打瀬小らしさ

打瀬中の授業見学。ガラス張りの教室は普段の様子を外からそのまま見ることが出来る。

科学部。熱心な説明に6年生は釘づけ。



## ベイタウンでもドローン宅配？

先日、本紙のfacebook ページでドローン特区について書いたところ、多くの方から問い合わせやご意見をいただきました。この問題は注目度も高く、多くの方が気になっているようです。もちろん僕自身も宅配での買い物が便利になりいいかなと思う半面、プライバシーや事故の可能性についても心配です。

しかし、この件については昨年ドローン特区について千葉市が立候補し、その後特区として認定されたというニュース以来何かが決まったという話を聞きません。ドローン宅配の構想にはベイタウンも含まれるのか、他に提案された民泊や自動運転はどうか、千葉市の担当部署に聞いてみました。

まず千葉市でこの件を担当するのは、新都心政策調整課という部署。首相肝いりで経済再生の目玉と言われる割に千葉市では意外にマイナーな(?)名前です。本庁内の会議室でプロジェクトチームを組んでと期待していた僕にはちょっと驚きでした。

さて、肝心の内容ですが、まずベイタウンが特区に含まれるかについては明確に「含まれる」です。千葉市はドローン以外の特区申請についても、新しくできる若葉地区だけでなくベイタウンも含まれるとしています。ベイタウンが含まれるかどうかについては読者の中にも疑問視する声があ

りましたが、これは私たちベイタウンの生活に直結することです。

では具体的に、いつ頃、どんな形で進められるのか聞いてみましたが、こうなると答は不明確。1月末に特区の範囲に千葉市が含まれるということが国(内閣府)で定まったばかりで、千葉市では具体的にいつ頃、何を、ということにはなっていないようです。要は国からの連絡待ちという状態で、担当の方にもわからないということのようです。最も知れたかった住民の合意が必要なのか、それはどんな方法で行われるのかなどについてもこれからです。

特区についてはドローン宅配のほかに、自動車の自動運転が可能となるとか、オリンピックでメッセが競技会場になるので、ベイタウンのマンションの部屋をホテルの部屋として宿泊可能にするという民泊も特区として認められています。

運転席に人のいないクルマが走る道路からエントランスに入ると、エレベーターホールで見知らぬ人たちの集団に声を掛けられ、逃げる思いで家に入りベランダに出ると宅配のドローンが飛び交う。

幕張新都心のベイタウンは新しい街。いろいろな面白い実験をして世間の注目を得るには格好の地かもしれませんが、ここは2万6千人が暮らす生活の場でもあります。もっと静かに暮らしたい。【松村】

が光っていました。

「がっこうたんけん」では、年長さんの手をひいて複雑な構造の校舎を迷わず案内したり、給食やプール、運動会などのことを書いた絵を見せて堂々と「がっこうしょうかい」したり。いつもは最年少の子どもたちにもうすぐ2年生になる表情があって、「入学したての頃を思い出すとじわっと来ます」と担任の先生が目を見詰めていました。

最後は全員で一斉に「まってるね!」と元気にかけ声。最初不安そうだったお客さまに笑顔がたくさん見えました。

翌18日の午後は、打瀬中の体験入学です。アリーナに打瀬の全6年生約400人が集合しました。千葉校長先生の挨拶のあと、生徒会長のお話がありました。「これから校舎案内ですが、授業中ですので、どんな態度がよいか自分でよく考えて行動してください」。

中学校では「がっこうたんけん」ではなく授業見学です。子どもたちはアリーナから打瀬中の先生の案内で校舎を回り、小学校よりさらに複雑な三階建ての校舎を興味津々ながら静かに神妙に見ていました。

「教室にドアも壁もあってビックリした」。あとでこんな面白い感想が聞けました。壁といってもガラス張りですが、打瀬の6年生にはそれも全く気にならない様子。子どもたちの常識は住んでいる環境で培われることがあるのですね。

授業見学の途中、ベイタウンの素晴らしい景色が望める屋上スペースを通りました。屋上は生徒に立入禁止と指導するのが一般的ですが、打瀬中はきちんと安全面も判断できるので開放しているとのこと。自由な校風の基盤に生徒たちへの信頼があるという、打瀬中の特徴がわかる場所が案内されました。

最後の部活見学で在校生の力発揮です。6年生は自由に興味ある部へ行き、中学生は部活の宣伝をする、体験入学のハイライトです。

なかには、何日も前から特別企画を練っていた部もありました。科学部では、複数の実験ブースを作り、白衣の部員が面白い実験をわかりやすく披露。訪れた6年生は皆非常に興味深く見ていました。卒業間近の小学生は、この体験入学で中学校生活での部活動に夢を膨らませたことでしょう。

「大きくなったな、すっかり中学生だ」という声があふきました。実は、この体験入学を誰よりも楽しみにしていたのは、6年生を引率してきた小学校の先生でした。普段見学する機会のない打瀬中で、昨年まで教え子だった卒業生たちとの再会を果たしていました。

今回の取材では、先生方が教え子の成長を見て喜んでいる姿が印象的でした。打瀬の体験入学は、新1年生のためだけでなく、在校生や先生方にとっても大切な行事で、地域の教育を支えているようです。

## 「うたせ認知症を考える会」のお知らせ

日時：3月31日（木）第5木曜日 14:00～16:00

場所：コア横「地域連携センター」（ひだまりスペース）

社会福祉協議会打瀬地区部会では認知症について考える会を開いています。第5木曜日が定例日です。「認知症の家族がいる」、「自分が認知症になるかもしれない」等、様々な動機の皆さんが集まります。臨床心理士さんをお呼びして勉強会を開いたこともあります。

ベイタウンは若い人の街と思われがちです。しかし年月が経てば人が年をとるのは当たり前のことで、高齢化に伴う問題は避けては通れません。不安ばかりが先立ちますが、正しい知識と経験者の知恵は大いなる支えになります。予約なしで誰でも自由に参加できますので、どうぞ気軽にお越しください。いつも専門相談員がいますが、今回は前回参加の臨床心理士さんも予定しています。

問合せ先：井上延子 TEL：043-211-7667

## 打瀬中吹奏楽部演奏会のお知らせ

毎年恒例の打瀬中学校吹奏楽部の定期演奏会が今年も開かれます。地域の方ならどなたでもお聴きになれます。中学校アリーナ（体育館）で行いますので、中学校に来たことのない方も是非おいでください。

3月27日（日）午後1:00 開場

場所：打瀬中学校アリーナにて

お問合せ TEL：043-211-0344 打瀬中学校

## 千葉市が観光 PR 大使を募集中

現在、千葉市には5つのビーチエリア（幕張の浜、検見川の浜、いなげの浜、千葉みなと、蘇我）の魅力を市内外に発信する観光PR大使がいますが、「幕張の浜」「検見川の浜」「いなげの浜」の担当が平成28年3月末で任期満了となるので、このエリアの新PR大使を募集しています。

それぞれの担当ビーチエリアを市内外のイベントや各種メディア出演やブログの執筆を通してPRし、時には5人揃って千葉市全体の魅力を発信していただきます。皆さんもチャレンジしてみませんか？詳細は下記HPをご覧ください。

[https://www.city.chiba.jp/keizainosei/keizai/kanko/chiba-city\\_5beachangels.html](https://www.city.chiba.jp/keizainosei/keizai/kanko/chiba-city_5beachangels.html)

## ゴミ輸送システム 説明会のお知らせ

ゴミ空気搬送システムがこの4月から正式に千葉市の管理となります。このシステムはご存知のとおり県企業庁が建設し、管理していましたが、ベイタウンの道路や公園などの公共施設の管理が千葉市に移されるのに伴い千葉市に移転されます。千葉市ではこれを機にゴミ空気搬送システムについての住民説明会を3月6日（日）にコアで開きます。

ゴミ輸送システムは我々の生活にはとても便利なものですが、今後の管理費用やオーバーホールが目処が立たないこと、さらに分別収集が主流となる実情に合わなくなっていることなどから先行きが不透明です。今後の見通しについて千葉市からの説明が注目されます。この説明会は主にマンション管理組合向けのものですが、一般住民の方も参加自由です。ぜひご参加ください。幕張新都心廃棄物空気輸送システムの管理者変更に伴うマンション管理組合向け説明会

日時：平成28年3月6日（日）13時から（1時間程度）

会場：幕張ベイタウン地域連携センター

## 3月のコア・イベント

3月19日（土）わくわくおはなし会 3月の常設おはなし会

わくわくおはなし会 3月の常設おはなし会

日時：3月19日 第3土曜日 10:30から

場所：ベイタウン・コア講習室

予約不要 途中入場できます。

今月もわくわくするお話を用意しておまちしています。

年齢制限はありません。絵本の好きな大人も子どももぜひきてね！

予約は不要です。読み手も募集中、見学大歓迎

ブログ更新中・見てね\*\* <http://waku.makusta.jp/> \*\*

お問合せ先：chibawaku2@freeml.com

3月26日（土）寺子屋工作ランド

「レインボースコープ」をつくろう

日時：3月26日 第4土曜日 9:30～11:30

場所：ベイタウン・コア工芸室

にじ色の万華鏡みたいなふしぎなスコープ。なにが見えるかな。

持ってくるもの：はさみ、木工ボンド、きれいな千代紙

参加費：50円（保険料）

第147回ファツィオリの会（コア文化振興基金後援事業）

日時：3月27日（日）9:30～11:30

場所：ベイタウン・コア音楽ホール

フルコンサートピアノ「ファツィオリ」の演奏や他の楽器の演奏、声楽や合唱などに使って頂くことが出来ます。非公開でのご利用を希望のときは、ご相談下さい。定員になり次第締め切らせていただきます。聴きにきて頂くのは、自由です。

最新の情報は <http://www.baytown.ne.jp/core/> をご覧ください。

締切：3月19日（日）

申込先：043-276-4266（庄司）。

email：namsc-2937@tbz.t-com.ne.jp

## 10周年を記念して美浜打瀬小学校がバルーンリリース

美浜打瀬小学校が創立10周年を迎え、2月26日に記念式典とバルーンリリース（風船飛ばし）を行いました。

この日、同校では午前中に10周年記念式典と6年生を送る会を行い、午後2:00頃に児童全員が自分で書いた手紙をくくりつけた風船を一齐に冬空に飛ばしました。

今日のベイタウンは雲一つない綺麗な快晴。「この青空は今日のバルーンリリースのために用意されました」と語る実行委員長のカウントダウンに合わせ、1,000人の子どもの夢や希望を載せた風船は風に流されながらもゆっくりと新都心の濃く青い冬空の方に上っていきました。

風の船に託した手紙が誰かの手に渡り、いい出会いがあることを祈ります。ちなみにこの風船は環境にも優しい素材でできていて、地面に落ちても土に帰るのだそうです。

